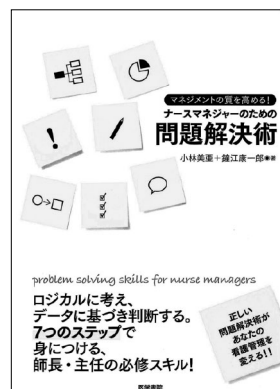


『マネジメントの質を高める！ ナースマネジャーのための問題解決術』 教員も活用できる問題解決 への取り組みを指南

著：小林美亜，鐘江康一郎／定価：本体 2,400 円 + 税
発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



私は、臨床実践を経たのち、看護専門学校の教育に携わり、現在管理の役割を担う立場にある。臨床であろうと教育の場であろうと問題はさまざまな形で起きるのであり、いかに問題をとらえ、適切な判断をして対応するかが重要であると日々実感しているところである。

さて、まず本書のページを開くと、問題解決の8つのピットフォールが解説されている。そもそも問題とは何であるかを正しく定義する重要性は、多くの人が認識しているところであろう。問題解決にかかわる管理者の誰もが、問題の認識から情報収集、分析、判断、実施、評価が適切になされているか、自己の姿勢や認識を顧みる機会となるのでとても参考になる。

第1章では「問題とは何かを知らなければ問題は解決できない」とある。管理者は、担当する部門(部署)のあるべき姿(理念や目的)を理解していなければ、問題は認識できず課題も見出せないのである。その“あるべき姿”を構想するためのツールとして、Purpose(目的軸)、Position(立場軸)、Perspective(空間軸)、Period(時間軸)の4Pが紹介されている。何のための問題解決か、誰にとっての問題か、問題の範囲、どのタイミングの事象を問題ととらえるのかが示されている。たとえば教員であれば「ある事象／問題が解決されなければ学生にとってどのような影響があるか」を、4Pの

視点から多角的に検討することができるであろう。

第2章では、問題解決の7つのステップと17の手順が述べられており、問題解決にあたって、追加すべき情報や分析が不十分なことについても気づかせてくれるように書かれている。著者らは、直面する問題の要因を明確化するのにどれくらい背景や要素を考慮すべきか、また、得られたデータの解釈と問題要因の絞り込み方についても述べており、その重要度や緊急度の判断についての考え方も大変参考になる。加えて管理者は、問題共有の方法はもちろんのこと、解決策の実施にあたり誰が行うことが望ましいかといった視点での判断も重要であると指摘しているので、理解しやすい。

第3章では、第2章の問題解決ステップで活用できるツールについて紹介され、どのツールを用いればより効果的に問題解決が図れるか図表を用いて具体的に解説されている。

本書は、管理者が直面する問題に対応するだけでなく、潜在的な問題への対策を講じたり、加えて組織にとってさらなる上を目指すための改善策について取り組むことがいかに重要であるかを再認識させてくれる内容になっている。そして解決の手立ても詳しく指南されている。臨床の管理者に留まらず、学校に身を置く教員もすぐにでも活用できる心強い味方になると考える。ぜひお読みになることをお勧めする。